

佐原市多田新田遺跡

— 主要地方道佐原山田線埋蔵文化財調査報告書 —



平成 10 年 3 月

千葉県土木部

財団法人 千葉県文化財センター

序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、千葉県文化財センター調査報告第334集として、主要地方道佐原山田線の拡幅工事に伴って実施した佐原市多田新田遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、縄文時代晩期の土器が出土するなど、この地域の原始の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成10年3月31日

財団法人千葉県文化財センター
理事長 中村好成

凡 例

- 1 本書は、千葉県土木部による主要地方道佐原山田線拡幅工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県佐原市多田486ほかに所在する多田新田遺跡（遺跡コード209-041）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県土木部の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査は、東部調査事務所長石田廣美の指導のもと、研究員菅原修が実施し、整理作業は主任技師石塚浩が下記の期間に実施した。

発掘調査	平成9年1月16日～平成9年1月31日
整理作業	平成9年6月16日～平成9年6月30日
- 5 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、佐原市教育委員会、千葉県土木部道路維持課、千葉県香取土木事務所の御指導、御協力を得た。
- 6 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第3図 国土地理院発行 1/50,000地形図「佐原東部」(N1-54-19-5-4)
- 7 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。

目 次

I	はじめに	1
1	調査の概要	1
2	遺跡の位置と環境	2
II	出土した遺物	3
	報告書抄録	巻末

挿図・図版目次

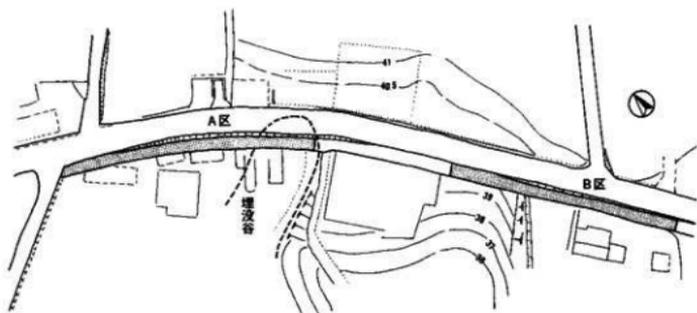
第1図	調査区全体図	1
第2図	トレンチ（上層）とグリッド（下層）配置図	1
第3図	多田新田遺跡と周辺の遺跡	2
第4図	縄文土器拓影	3
図版	A区の発掘（上）とB区の発掘（下） 出土した縄文土器	

I はじめに

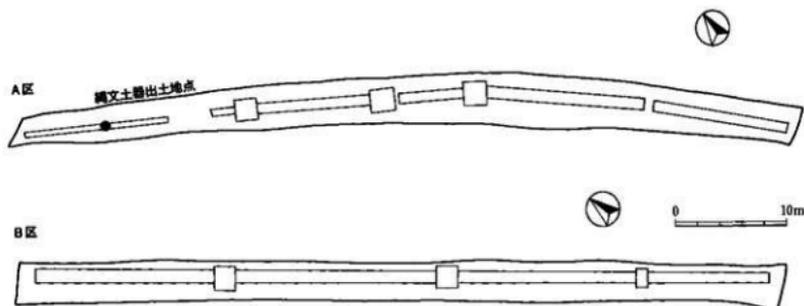
1 調査の概要 (第1、2図)

千葉県土木部は、主要地方道佐原山田線の多田新田地区において、歩行者の交通安全対策として道路拡幅工事を計画した。そこで工事区内の埋蔵文化財の取り扱いについて関係諸機関と協議した結果、記録保存の措置を講ずることとなり、平成9年1月16日から財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

調査対象面積は534㎡であるが、事業地内に未買収地を挟んでいるため、便宜的に北側をA区、南側をB区とした(第1図)。両区とも幅の狭い路線部分であったため、安全柵を設置し、掘削には小形のバックホウを使用した。上層調査のためのトレンチの幅は1m~1.8mとし、遺構検出面(ソフトローム面)まで、深さ50cm~90cm程掘り下げた。下層調査のためのグリッドはA区、B区にそれぞれ3カ所ずつ、計6カ所設定し(第2図)、武蔵野ローム層上面まで掘り下げた。発掘調査は同年1月31日まで行われ、上下層とも遺構の検出は無かったものの、A区より縄文土器の出土が少量あり、周囲の遺跡や地形の状況を考慮すると、当地域が縄文時代後期から晩期の遺跡の一部であることが判明した。



第1図 調査区全体図



第2図 トレンチ(上層)とグリッド(下層)配置図

2 遺跡の位置と環境 (第3図)

多田新田遺跡は、利根川支流の小野川を北に約3km程さかのぼった標高約41mの台地上に位置する。周囲は複雑な支谷が入り込み、埋没谷も多い。本遺跡でもA区の南側トレンチは小規模な埋没谷であり、ローム層が検出されず、黒色土が厚く堆積していた。周囲の遺跡では2の新橋遺跡、4の朝日ヶ森遺跡からは縄文中期(加曾利E式)、3の鶯台(うぐいすだい)遺跡、5の日向遺跡、8の小林遺跡では縄文後期(加曾利B式)の土器が発見されている。また、7の台畑貝塚は佐原市指定遺跡であり、縄文後期(加曾利B式、堀之内式)の地点貝塚である。一方、9の木戸脇遺跡からは縄文前期(浮島式)土器が見られる。

多田新田遺跡は小見川町に隣接しており、10のカジャI遺跡は縄文早期~前期(田戸下層、関山式)、11の大平遺跡は縄文後期(加曾利B式)の遺跡とされている。以上の遺跡からは、平安時代の土器も伴出しているが、概ね縄文時代後期に中心があり、この時期の集落が当地域に広く展開していたと考えられる。



第3図 多田新田遺跡と周辺の遺跡

- | | | | | |
|-----------|---------|---------|-----------|------------|
| 1. 多田新田遺跡 | 2. 新橋遺跡 | 3. 鶯台遺跡 | 4. 朝日ヶ森遺跡 | 5. 日向遺跡 |
| 6. 台畑遺跡 | 7. 台畑貝塚 | 8. 小林遺跡 | 9. 木戸脇遺跡 | 10. カジャI遺跡 |
| 11. 大平遺跡 | | | | |

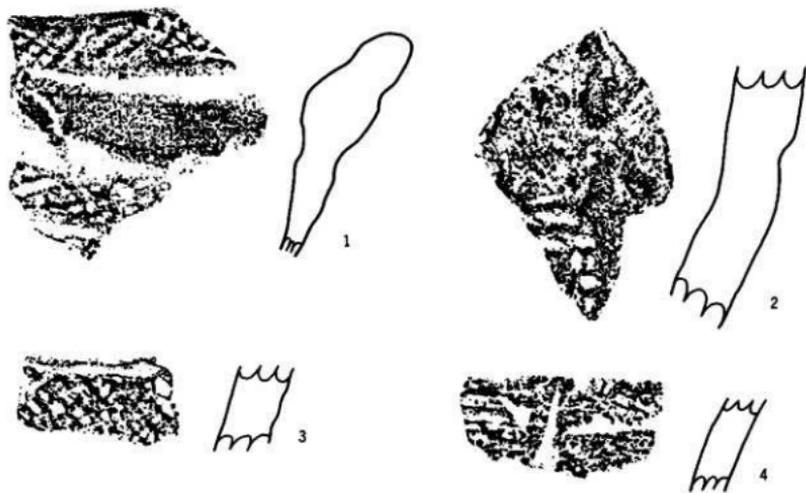
II 出土した遺物（第4図、図版）

A区トレンチ北側の表土から縄文土器の細片が出土した。埋没谷に当たるA区南側、及び緩斜面のB区からは遺物の出土はない。地形の状況から判断すると、A区は埋没谷から北側に広がる平坦地の縁辺に当たる。おそらく北側平坦地には縄文時代後期から晩期の集落が存在していたと考えられ、出土した土器はその所産であろう。

1は前浦式である。口縁部内側は肥厚し、口唇部直下からLR縄文が施文されている。縄文の上から太い沈線が複数描かれ、その内部は無文（磨消縄文）となっている。2、3、4は型式は不明であるが、縄文の大きさ、形状、沈線から判断して、後期から晩期の範疇にある土器片と考えたい。いずれの土器片も磨耗が著しく、胎土も不良である。

前浦式については、銚子市余山貝塚¹⁾に比較的まとまった出土例があるが、当地域のような台地上での類例は少ないと思われる。本遺跡周辺では縄文時代後期に多くの人々の生活の跡が残されているが、その後、晩期まで、継続的な営みがあったと考えられる。

注1 石橋宏克 1991 『銚子市余山貝塚』 財団法人千葉県文化財センター

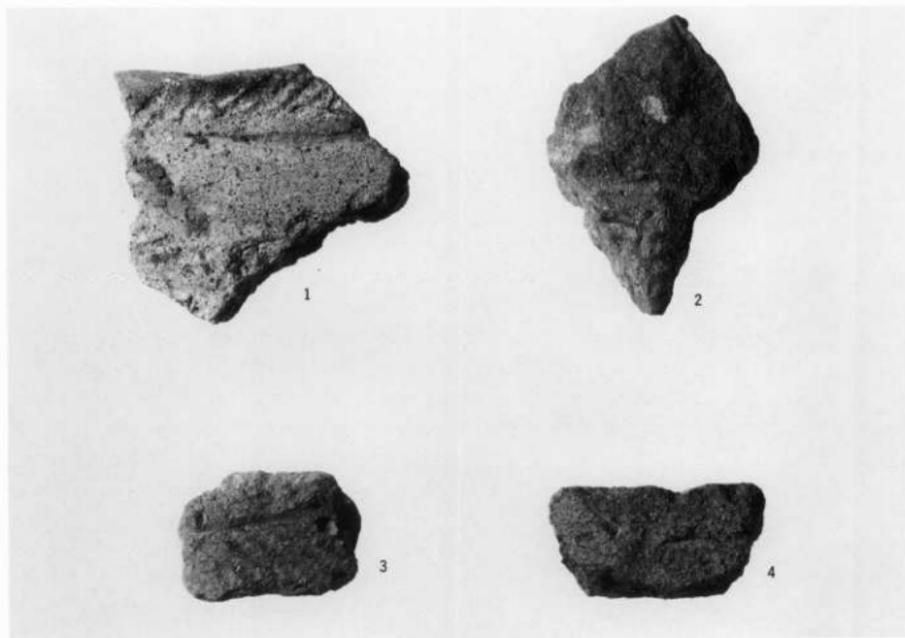


第4図 縄文土器拓影（原寸）

図版



A区の発掘（上）とB区の発掘（下）



出土した縄文土器

報告書抄録

ふりがな	さわらしただしんでんいせき							
書名	佐原市多田新田遺跡							
副書名	主要地方道佐原山田線埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第334集							
編著者名	石塚 浩							
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 Tel 043-422-8811							
発行年月日	西暦 1998年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	''''	''''		m ²	
多田新田遺跡	千葉県佐原市多田486ほか	12209	041	35度 51分 50秒	140度 32分 50秒	19970116～ 19970131	534	主要地方道 佐原山田線 拡幅工事に 伴う事前調 査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
多田新田遺跡	散布地	縄文時代		縄文土器(後期～晩期)				

千葉県文化財センター調査報告第334集

佐原市多田新田遺跡

—主要地方道佐原山田線埋蔵文化財調査報告書—

平成10年3月31日発行

編	集	財団法人 千葉県文化財センター
発	行	千葉県土木部
		千葉県市場町1-1
		財団法人 千葉県文化財センター
		四街道市鹿渡809番地2
印	刷	株式会社 弘文社
		市川市市川南2丁目7番2号